



「支援・育成」で水煙会の発展を！

水煙会会長 長崎 駿二郎

月日のたつのは早いもので今年も間もなく半分を過ぎようとしております。

この半年のほぼ中間点である、3月11日に起きました東日本大震災の被害の甚大さに慄然とすると共に、原子力発電所の被災に伴う放射能被害が途轍もなく長期にわたる事を知るに付け、**自然の底知れぬ力と人智の浅はかさ**を改めて感じざるを得ない状況にあります。犠牲になられた方々や被災された方々に改めて哀悼の意を表すと共に、水煙会として少しでも復旧・復興の支援をして行きたいと考えております。

平成22年度学位授与式において横浜国立大学工学部には『名教自然』と言うキーワードがあると言う事を話しました。横浜高等工業学校の初代校長鈴木達治先生が語られこの学校の教育方針とされた言葉ですが、「自から学ばんとする自主・自立の精神」を持たせるようにするのが『名教自然』の意味する所であります。

ただ、この言葉を思いつかれる原点に、西晋の七賢人・王戎の問答があるそうですが、自然の摂理を極める事の重要さが言われており、正に今回の大地震による倒壊・津波・放射能といった災害が我々に教えて呉れた様々の事を『名教自然』と捉え横浜国大工学部で学ぶ者は忘れてはいけないキーワードとしようと申し上げました。

そしてこのような国難の最中、それを政争の具に右往左往する品格の無さはどうにもならない不快さが付きまといますが、古代ギリシャの哲人アリストテレスは、自然には何も無駄は無いと言う名言と共に「**国家の運命は青年の教育に懸っている**」と説かれています。

振り返って水煙会の足元を見直してみると、どうも若い会員の方々からドンドン疎遠になって来ており、その状態は会報40号の「水煙会の現状と問題点」で示させていただきました。確かに同窓会機能は、どこでも【会員同志の親睦・交流】と【後進の育成・母校の発展】が謳われておりますが、どうも当会は

前者の方に力点が置かれ、後者の役割を少々おろそかにしてきた結果ではないのか？とこの大震災を通して考えるようになりました。

国立大学から独立法人へ、工学部から理工学部へ、と大学側が時流と共に変化してきております。これからはアリストテレスではありませんが、当会も【後進の育成・母校の発展】に力を入れるよう舵を切ろうと考えております。そしてまずはその第1歩として、在校生と卒業生の交流を企画すると共にこの大震災で自らの学び舎を失ってしまった東北大学、都市・建築専攻の皆様へ支援を申し上げたいと思っております。

大震災直後開きました水煙会総会・記念講演会でも参加した方々から義援金を頂戴しております。当日の交通事情等から参加できなかった皆様に、その様子を録画したDVDを、進呈致しますので、是非被災された東北大の建築仲間たちに温かい志をお願いしたと存じます。

平成 23 年 6 月 9 日